

平成21年度前期松岡ゼミ募集要項と選抜基準

2008/12/10

1 募集人数

- ・演習室の収容可能人数やゼミの運営の都合上、25名前後が最適と感じますが、現在オブザーバーを含め31名が参加しています。過去の実績も勘案して、3回生15名＋4回生7名前後＋オブザーバー若干名という人員構成を目標にします。

2 開講日時

- ・毎週月曜日 5時限目：学部講義時間割との関係で来年度は変更します！
- ・ゼミの性質上、終了時間は定時ではありません。今年度実績では、途中10分程度の休憩を挟んで、7時30分より前になることはほとんど皆無です。各人のやむをえない事情によって早退を認めることはありますが、このゼミを選択する人は、月曜日夕方には予定を入れてはいけません。

3 ゼミのテーマ

- ・民法の現代的な諸問題。
- ・3回生の履修状況を考慮し、主として民法総則・物権法から報告者グループが任意にテーマを選んでいただきます。ここ数年の実例は、私のホームページ (<http://www.matsuoka.law.kyoto-u.ac.jp>) のゼミの項を参照してください。

4 ゼミの基本方針

- ①楽しく懇親しつつ勉強すること。
- ②ゼミの時間の内外を問わず積極的に発言し行動すること。
- ③理由なく休まないこと（メール・伝言等での事前の欠席連絡が不可欠）。
- ④答案やレポートは必ず期日に提出すること。
- ⑤相談等は気軽に、しかし原則としてメール等で予約して研究室に。

5 ゼミの進行方法

通常のゼミの進行は、次のとおりです。3人1組の報告班が、希望のテーマについて、1週間前に配布したレジュメを基に報告します。私は、随時、修正・質問・補足説明・突っ込みを入れます。参加者からの質問も適宜していただきます。報告終了は6時30分前後になります。10分程度の休憩後、私もしくは報告班が準備した具体的設例を4～5グループで検討し、最後に全体で討論します。

定例の内容のほかに半期に2回程度特別な企画を入れます。

6 ゼミ生の選抜方法

いずれも成績と自己アピール文書の総合的判断によります。

ここ数年、第一希望の段階で定員を超えていますので、第二希望以下では履修は不可能と予想され、自己アピール文を用意していただいても無駄でしょう。

自己アピール文書は、ゼミへの応募資格としていますので、これを欠く場合には、成績優秀者でも不利益を受けます。

所定用紙 **B5 横書き**（ワープロ・パソコン使用可。その場合、40字×30行）。

枚数は指定しない。平成20年度（前期）も非常に面白かった。

提出場所 メールへのファイル添付（一太郎・ワード・テキストいずれも可）又

は法経北館4階410号松岡研究室の扉に貼り付けた封筒

メールの題名は「自己アピール文」としてください。

提出期限 3回生・4回生とも12月22日（月）

記載内容の例

- ・松岡の民法ゼミを履修したいと思った動機。ゼミで何をやりたいか、民法のどこに興味を持つのか、なぜ松岡ゼミなのか、等々。
- ・自己のこれまでの成績が芳しくなかったと自覚がある人は、反省を込めてその理由。そして、今後、そうした問題点を具体的にどういうふうに解消するつもりか（例：クラブ・同好会・アルバイト等で週**時間はとられていて忙しかったが、来年度からやめるとか、週**時間に活動を縮小する具体的な計画があって、勉強に打ち込める態勢を整えるなど）。説得力が肝心です。
- ・通常のゼミ活動以外（コンパ・旅行等）につき、どういう考えをもつてのぞむか。ゼミでは例年ほぼ毎月のコンパや旅行等のイベントがあります。
- ・その他、自分はこういう人間であるから、ぜひゼミに参加したいなどの、積極的アピール。文章の面白さも考慮しますが、ごますりにはダメです。

7 オブザーバー決定と予備的打合せについて（重要）

- ・ゼミの活性化の点で、単位に関係なく当ゼミに出たいという熱意がある者をオブザーバーとして数名参加を認めています。例年6～8人程度が参加しています。
- ・オブザーバーと正規のゼミ生の違いは、単位が出るか否かだけです。オブザーバーも均等に報告等の義務を負う反面、ゼミコンパ・旅行その他のゼミの行事に参加し、ゼミの運営につき等しく意見を述べる権利を保障します。
- ・オブザーバーの参加の可否及び来年度ゼミのための予備的な打合せを2月の定期試験終了直後（2月16日（月）16時半から第13演習室）に行う予定で、ホームページの掲示板での連絡に注意しておいてください。

8 連絡先

メール・アドレス matsuoka@law.kyoto-u.ac.jp または TBE00600@nifty.ne.jp